

# 東京に現れた町のヒーローは 「ベビーカーおろすんジャー」

新宿から電車で十数分という都心にありながら、昔ながらの商店街が残る、庶民的な雰囲気だ。とうとう東京メトロ丸の内線・方南町駅（東京都杉並区）。この駅は、数年前までエレベーターなどがなく、利用者にとって大変不便な駅でした。特に、ベビーカーに子どもを載せて上り下りするお母さん、重い荷物を持ったお年寄りは大変です。

そこに現れたのが、緑の服に身を包んだ「ベビーカーおろすんジャー」。



改札までベビーカーを運びます

彼は、無理せず、楽しくがモットーの「リアルライフヒーロー」。

今日も駅で、困っている人たちの手助けを続けています。

## ヒーロー誕生のきっかけ

取材当日は、外出自粛要請こそ出されていなかったものの、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、落ち着かない気持ちで方南町駅に向かうと、「こんにちは!」と、グリーンのスーツを着たヒーローが颯爽と登場。駅まで迎えに来てくださる優しい心遣い、明るく元気なあいさつで一瞬にして心の距離がぐっと近づきました。

ヒーローの名は「ベビーカーおろすんジャー」。その名の通り、階段などでベビーカーや重い荷物の上げ下ろしを手伝ってくれる「リアルライフヒーロー」です。活動を始めた

のは、大学3年生の頃。親に、「東京は怖いから気を付けて」と言われて育ったヒーローですが、

上京を機に住み始めた方南町の住民はあたたかく、「もつとみんなと仲良くなりたい」と、街のごみ拾いを始めたことがきっかけでした。

しかし、なかなか街の方との交流には至らず、ひとり黙々とごみ拾いを続ける日々……。自分から積極的に話しかけることができず悩んでいたとき、家にあったヒーロースーツを着ることを思いつきました。自分ではないもう一人の自分に変身!

すると、好奇心旺盛な子どもたちが近寄ってくるように。そして徐々に、大人たちも……。自分自身も素顔が見えないので話しやすく、自然と住民たちとも会話が生まれ、コミュニケーションが深まりました。

次にヒーローが起こした行動は、



## ヒーローはこんな人

目元の涼しげな目  
身長：177cm  
足のサイズ：27.5cm  
血液型：O型

方南町駅でのベビーカーの上げ下ろしのお手伝い。方南町駅には、平成29（2017）年までエスカレーター・エレベーターがなかったため、「ベビーカーで移動するのが大変」との声を聞いたことがきっかけ

で、ごみ拾いから始めた活動は今年でなんと12年目に突入しました。

今では、商店街の方々などに協力してもらい、「おろすんまつり」という子ども向けイベントを月1回開催するなど、地域交流や町おこしにも一役買っています。

ベビーカーの上げ下ろしのお手伝いは、海外ではする方もされる方もためらいがなく、よく目にする光景だと聞きます。しかし、日本人は遠慮があったり、断られたら恥ずかしいと、ためらってしまう人が多いようです。

意外にも、ヒーローも最初は断られることが多かったのだとか。しかし、発想を転換し、「ベビーカーを持ちましょうか」ではなく、「よかつたら、ベビーカーを持たせてください」と元氣よく声をかけるようにしたところ、任せてもらえるようになり、親切を受けてもらうには、声のトーンや言葉の選び方が大切なのだということにも気づきました。

住民からは、「自分も手伝いましうか、と声をかけやすくなった」「手伝って、と頼みやすくなった」と感謝されるようになり、とても嬉しかったと話してくださいました。

## キーワードは「常に楽しく」「無理をしない」

活動中は、子どもと触れ合うことが多いことから、ニュースなどを見ていても、自然と子どもに関する話題に目がいくようになりました。

貧困家庭の子どもたちに食事を提供する「子ども食堂」の活動を知ると、「とりあえずやってみよう」と自身が主催するイベント「おろすんまつり」に取り入れました。ただ、貧困家庭の手助けをしようということではなく、あくまで「みんなが楽しく食べよう」がコンセプトです。

「おろすんまつり」では、防災や身体の不自由な方の介助などについて学ぶ機会も設けていますが、自分の子どもも時代を振り返り、「まじめすぎて楽しくないことは、あまり記憶に残らないから」と、これも「楽しく」がキーワード。

商店街の方々も協力して、スタンブラリー形式にしたり、ゲーム感覚でいろいろなことが学べるよう工夫を凝らしています。

ところで、ヒーローがグリーンの



スーツを着ている理由は、「野菜が好きだから」だそうです。ふだんの服や愛用の自転車もグリーン。野菜好きが高じて、青果店で働いているほか、知り合いを手伝い、石川県で米作りもしています。さらに、「おろすん農園」と称し、お寺の一角を借りて子どもたちと一緒に野菜を育てる活動も。

実は、ヒーローは親切運動の支部数日本一を誇る。親切さんの多い県、山口県出身。もともと、親切さんの素養があったのかも知れませんが、10年以上も活動続けるのは並大抵のことではありません。何か秘訣はあったのでしょうか。

「他に夢中になることがないので……」と謙遜しつつ、継続の秘訣は「無理をしないこと」。疲れているときはやらない、と最初から決めていました。二日酔いで駅に行けないと

きは、代わりの人にベビーカーの介助をお願いすることもあったそうです（笑）。

また、イベントなどで人手が必要な時は、SNSでボランティアを募集すると、たくさんの方が集まってくれます。みんなの力を借りて、経費を抑えながら、自分が頑張りすぎることなくイベントを運営。もちろん、新たな人との交流も大いに楽しんでいます。

ご本人は、ボランティアという意識はあまりなく、活動はあくまで「趣味の延長」だとのこと。終始飄々とした雰囲気。ヒーローですが、まだまだやってみることがたくさんある様子。方南町を愛し、自分の好奇心のおもむくまま、子どもたちや住民と楽しみを共有する新しいコミュニケーションの形を教えてください。（報告・今野那緒子）



〈上〉レトロな雰囲気の方南町駅周辺  
〈下〉「おろすんまつり」で目の不自由な方の介助を体験